

(様式5) 今年度の評価(学校アクションプラン)

令和7年度 富山商業高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動																																											
重点課題	教科指導の充実と確かな学力の向上																																											
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習意欲や学習理解度に差が見受けられる。そのため、各教科において指導内容や指導方法の改善を図るとともに、生徒に意欲をもって授業に取り組ませ、確かな学力を身に付けさせることが必要である。</li> </ul>																																											
達成目標	①指導力の向上を意識した授業改善	②課題設定力・解決力を身に付けさせる																																										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の教員の授業を、各学期1回以上参観する。</li> <li>生徒の学習に対する取り組み方や授業内容の理解度、満足度に関する状況調査をアンケート方式で行う。授業内容の理解度80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標達成度自己評価表により、年3回以上評価基準に照らし合わせ自分を振り返る。</li> <li>自己評価シートで項目ごとにチェック。課題解決力6項目で、S・A評価が全体の50%以上</li> </ul>																																										
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学期に互見授業週間(年2回)を定め、各週間に他の授業を各1回以上参観する。</li> <li>参観者は、互見授業シートを記入し、授業者及び自らの授業改善に資する。</li> <li>各科目学習アンケートを取り、生徒の授業への取り組み具合を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>期末考査(年2回)後に、「課題設定力・解決力」6項目(コミュニケーション能力、自主性、協調性、粘り強く挑戦する心、創造性、確かな学力)について、現在のレベルをチェックし、評価の具体的な根拠を記入し、提出させる。</li> <li>学年末に観点別自己評価を実施し、シラバスに対応した知識・技能・思考判断などを身につけられたなど目標達成できたかを自己評価し、提出させる。</li> </ul>																																										
達成度	<p>互見授業評価シート回収率(各学期44件回収目標)</p> <p>1学期 30件 68% 2学期 42件 96%</p> <p>教科別学習アンケート(2学期)理解度のみ抜粋</p> <p>各科目5段階で評価(5:理解、4:概ね理解の割合)</p> <p>1学年 67% (68%) 体育 言語文化 情報処理</p> <p>2学年 84% (76%) 体育 国語研究 原価計算</p> <p>3学年 79% (78%) 体育 国語研究 課題研究</p>	<p>自己評価シート課題解決力(S・Aの割合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学期</th> <th>→</th> <th>2学期</th> <th>増減</th> <th>昨年度2学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コミ能力</td> <td>66%</td> <td>→</td> <td>74%</td> <td>+8%</td> <td>(71%)</td> </tr> <tr> <td>自主性</td> <td>67%</td> <td>→</td> <td>73%</td> <td>+6%</td> <td>(71%)</td> </tr> <tr> <td>協調性</td> <td>80%</td> <td>→</td> <td>89%</td> <td>+9%</td> <td>(84%)</td> </tr> <tr> <td>挑戦心</td> <td>74%</td> <td>→</td> <td>81%</td> <td>+7%</td> <td>(79%)</td> </tr> <tr> <td>創造性</td> <td>60%</td> <td>→</td> <td>66%</td> <td>+6%</td> <td>(65%)</td> </tr> <tr> <td>確学力</td> <td>51%</td> <td>→</td> <td>60%</td> <td>+9%</td> <td>(56%)</td> </tr> </tbody> </table>		1学期	→	2学期	増減	昨年度2学期	コミ能力	66%	→	74%	+8%	(71%)	自主性	67%	→	73%	+6%	(71%)	協調性	80%	→	89%	+9%	(84%)	挑戦心	74%	→	81%	+7%	(79%)	創造性	60%	→	66%	+6%	(65%)	確学力	51%	→	60%	+9%	(56%)
	1学期	→	2学期	増減	昨年度2学期																																							
コミ能力	66%	→	74%	+8%	(71%)																																							
自主性	67%	→	73%	+6%	(71%)																																							
協調性	80%	→	89%	+9%	(84%)																																							
挑戦心	74%	→	81%	+7%	(79%)																																							
創造性	60%	→	66%	+6%	(65%)																																							
確学力	51%	→	60%	+9%	(56%)																																							
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業では、ICTを利用した授業の取り組みが標準化され、新しい授業のスタイルが定着してきている。</li> <li>学習アンケートは、各学期、全学年6項目5段階全教科で実施。</li> <li>課題解決の自己評価について、1学期では「確かな学力」は51%であったが、2学期では60%となり、久しぶりに60%台に達しており、学習への手ごたえを感じる生徒が増加している。</li> <li>授業アンケートは、学期ごとの変動等を教科の指導に役立てている。</li> <li>観点別評価を1科目選択し、自己評価を3段階で実施予定。(3学期末)</li> </ul>																																											
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度からの課題であった互見授業アンケートの回収率の向上については、提出回数を減らす代わりに授業実施者へのコメント必須とした。その結果、目標である90%以上の回収を達成し、具体的な感想や改善ポイントを直接伝える手段として効果を得ることができた。</li> </ul>																																										
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業の回数は目標に達しなかったが、授業研究に熱心に取り組む姿勢は見られた。</li> <li>学習アンケートでは、自己評価は5項目で評価が上昇し、成果がみられた。</li> </ul>																																											
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点別評価の活用方法を研究課題とし、科目の達成目標と生徒自身の成長を感じられる指導の資料として活かしていけるよう分析する。</li> <li>課題解決力自己評価シートについては、全学年で高い伸び率を示したが、直接的な要因として断定はできないが、デザイン思考やアントレプレナーシップ等の取り組みが効果を表し始めたと考え、今後も効果的な連携を模索していく。</li> <li>これまでの互見授業に加えて、さらにお互いを研鑽していくシステム作りが継続課題である。</li> </ul>																																											

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

(様式5) 今年度の評価(学校アクションプラン)

令和7年度 富山商業高等学校アクションプラン -2-

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の活性化と競技力の向上	
現 状	<p>・本校は運動部17、文化部11の計28部が設置されており、全学部活動制である。運動部・文化部ともに多くの部が、県大会優勝や全国大会入賞を目指して熱心に部活動に取り組んでいる。昨年度の全国大会出場者は116名(16%)、北信越大会出場者は273名(39%)で、全国大会は目標にわずかに届かなかったが、北信越大会は目標を大幅に超えることができた。</p> <p>・部活動は本校の教育活動の柱であるが、その活動目標や活動内容、活動時間について部員がどのように感じているのか、その実態を顧問が把握した上で部員とコミュニケーションを図り、より良い部活動にしていくことが大切である。</p>	
達成目標	①部活動の個人満足度 「とても満足している」「満足している」 生徒の割合	②全国大会・北信越大会出場生徒の割合 (大会出場者人数÷全校生徒数×100)
	80%以上	全国20%以上 北信越30%以上
方 策	<p>・部活動の実態(活動目標、活動内容、活動時間)について部員がどのように思っているかを調査し、その結果を各顧問が把握し、部員と改善点を話し合い、部活動の満足度を高める。</p> <p>・各部活動を円滑に運営するために、適宜、部顧問会議やキャプテン会議を開き、諸問題について検討し、改善を図る。</p>	
達成度	<p>①調査をした結果、今の部活動の環境に満足している生徒は95%以上と、目標の80%を超えていた。</p> <p>※回答率87%(608名/700名中)</p>	<p>②全国大会出場者 140名(20%)</p> <p>北信越大会出場者 238名(34.1%)</p> <p>全国大会、北信越大会ともに目標を達成することができた。</p>
具体的な取組状況	<p>①活動時間については、「適当である」と答えた生徒は推薦入学、一般入学で差はなく94%だった。自分に合った部活動を選択しているので活動時間に対する不満は少ないと言える。活動内容については「とても満足している」推薦59%、一般41%「適当である」推薦37%、一般54%だった。</p> <p>総合的に今の環境に満足しているか聞いたところ、「とても満足している」推薦58%、一般40%「満足している」推薦37%、一般55%だった。「とても満足している」と答えた生徒は、自らやりたい意志が強く、その環境も整っていると考えられる。</p> <p>②今年度は28部中15部が全国大会出場を果たした。陸上競技部は女子棒高跳びで4位、水泳部は男子400m自由形で8位入賞を果たした。ワープロ部は日本語スピード競技で団体7位、個人佳良賞を獲得した。</p>	
評 価	A	<p>①全学部活動制をとっていることからすれば、今の部活動の環境に満足している割合が95%を超えている結果は良かったと言える。</p> <p>②各部活動顧問の先生方の献身的な取組により、目標を達成できたと考えられる。</p>
学校関係者の意見	<p>・粘り強く挑戦する指導が結実し、全国大会や北信越大会への出場者が目標人数を上回ったと考える。</p> <p>・部活動顧問の先生方の献身的な取組により、運動部文化部問わず、活発に活動できた。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>全学部活動制をとっている限り、今の環境に満足できていない生徒の対応も大切である。悩みや不安があるとすれば何であるのか、転部をした理由は何であるのかなど把握していくことが大事である。ただ、大切なことは生徒にすべて合わせるのではなく、生徒が環境に合わせることも必要である。そこの折り合いをつけ、お互いにより良い部活動にしていくためのコミュニケーションを密にしていくことが課題である。</p>	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

(様式5) 今年度の評価(学校アクションプラン)

令和7年度 富山商業高等学校アクションプラン -3-

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故の減少への意識向上と自転車乗車時のヘルメットの着用(自転車利用生徒の100%)</li> <li>・SNSの利用マナーやモラルの向上</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内全域から通学しており、入学当初は慣れない通学による自転車による交通事故が起きている。昨年度の交通事故は15件で、重大な事態に繋がる危険性を秘めている。また、自転車の乗車マナーについても、地域からご指摘を受けることもある。</li> <li>・自転車乗車時のヘルメットの着用が努力義務化されたが、着用してくる生徒は少ない。</li> <li>・SNSの利用マナーや、モラルの欠如によるトラブルがいじめに発展するなど多くの危険が潜んでいる。</li> <li>・安易にSNSで写真や動画を投稿してしまうことが見受けられ、指導を行うことがある。</li> <li>・風紀委員の活動が活発化してきたが、まだ自主的な活動までには至っていない。</li> <li>・風紀委員会のスマートフォン等や自転車のマナー向上啓発運動がまだ浸透していない。</li> </ul>	
達成目標	<p>①交通事故件数の減少(前年度15件) 自転車乗車時のヘルメット着用、自転車利用生徒の100%着用を目指す。</p> <p>②SNSの不適切な利用に関するトラブル年間0件</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に自転車点検、5月に交通安全指導講話を開催し、規範意識やマナーの向上と自転車乗車時のヘルメット着用を呼びかける。</li> <li>・風紀委員が警察署や関係機関と合同で、自転車施錠やマナー向上の呼びかけを行う。</li> <li>・7月にSNS危険防止教室を開催し、SNSの利用マナー向上に努める。</li> <li>・生徒のスマートフォン等使用に関する実態把握に努め、風紀委員会で、マナー向上や適正なスマートフォン利用時間等のためのポスターや掲示板作成を実施する。</li> </ul>	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車乗車時のヘルメット着用に対する取り組みを評価され、10月に自転車安全利用推進校に認定された。(県下2校目)</li> <li>・12月に警察等と協力し生徒玄関にて風紀委員が自転車乗車時のヘルメット着用や、自転車の安全利用について呼びかけた。</li> <li>・交通事故件数は14件で昨年より減少した。</li> <li>・自転車乗車時のヘルメット着用については、昨年は18.4%。今年度1学期21.5%、2学期17%と減少傾向となっている。</li> <li>・SNSの不適切な利用に関するトラブルは年間0件であった。</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎学期に自転車乗車時のヘルメット着用、スマートフォンの利用に関するアンケートを実施し、結果と問題点を掲示板として生徒に提示し意識の定着や改善を図った。</li> <li>・本年度は昨年度に続き、風紀委員が、自転車係、ポスター係、掲示板係にわかれて活動した。</li> <li>・風紀委員会が活発に活動することで生徒全体に規範意識の向上を促した。</li> <li>1. 自転車係：自転車小屋での自転車施錠点検、ステッカー確認を実施した。また、警察等と協力し自転車乗車時のヘルメット着用や、自転車の安全利用について呼びかけた。</li> <li>2. ポスター係：「ヘルメット着用」「スマートフォンの正しい使用方法」に関するポスターを作成し、廊下、階段、生徒玄関に掲示した。</li> <li>3. 掲示板係：風紀委員会からのお知らせを作成し「掲示板」の名前でクラス掲示した。</li> <li>1学期：「自転車ヘルメット着用」、「スマートフォンの使用方法」に関するアンケート結果</li> <li>2学期：「自転車ヘルメット着用」、「スマートフォンの使用方法」に関するアンケート結果</li> <li>3学期：「自転車ヘルメット着用」、「スマートフォンの使用方法」に関するアンケート結果</li> <li>・外部講師等を招いて5月に交通安全指導講話を実施し交通ルールと交通安全への理解を深めた。</li> <li>また、7月にSNS危険防止教室を開催しSNSの使用マナーとモラルの向上を図った。</li> </ul>	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故件数は減少したが、加害者になる事故もあった。</li> <li>・SNSの不適切な利用に関するトラブルは年間0件であった。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全に関する意識が高まり、生徒のヘルメット着用率が向上した。</li> <li>・風紀委員会の活動が活性化した。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車乗車時のヘルメット着用の予定がある生徒は1学期15.9%、2学期29%と増えていることから、呼びかけを工夫しヘルメット着用に繋げなければならない。</li> <li>・自転車乗車時のヘルメット着用率が減少している理由を明らかにし、着用を継続するよう呼びかけなければならない。</li> <li>・24時以降にパソコン、タブレット、スマートフォン等を使用している割合が1学期9.5%に対して2学期は14.5%に増加している。深夜の使用がモラルの低下につながることも心配されるため、使用方法について問題提起する必要がある。</li> </ul>	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

重点項目	進路支援																																																				
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会や職業についての幅広い知識・理解とともに職業観・勤労観を育む。</li> <li>・自己理解を深めさせ、一人一人が能力や適性に合った進路選択ができるよう支援する。</li> <li>・自分の考えや思いを的確に表現できる文章記述力を系統立てて指導する。</li> <li>・個に応じた組織的・計画的な取り組みを通して、より効果的な進路支援を行う。</li> </ul>																																																				
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業観・勤労観の育みが遅い生徒は、自己の進路希望・進路目標の確立も遅い傾向がある。</li> <li>・生徒自身の自己理解が不十分な生徒は、適性や能力に適合しない進路選択をする場合がある。</li> <li>・近年の大学等募集人員や受験倍率の変化、求人数増加による就職希望先の選択肢拡大により、生徒の安易な進路選択が中途退学や早期離職などにつながるよう、生徒自身の自己理解を深めさせる配慮がより一層重要になってきている。</li> </ul>																																																				
達成目標	①小論文における記述能力	②第3学年生徒の進路満足度																																																			
	小論文模試の評価向上	98%以上																																																			
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事の要約や自分の意見をノートにまとめさせ、日頃から観察力や分析力を鍛え、思考を文書化する表現力を育成する。</li> <li>・国語科と協力して国語の授業を活用し、小論文記述力を学年進行で向上させる方策を実施する。</li> <li>・1,2年は年間3回、3年は年1回の小論文模試を実施する。</li> <li>・外部講師によるガイダンスを実施し、幅広い知識や考え方を養う。</li> <li>・生徒を指導する教員に対しても小論文指導のためのガイダンスを実施し、教員の指導力向上を図る。</li> <li>・小論文模試では、「説得力」「構成力」等の評価の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス等を計画的に実施し、より早い段階から具体的に自らの進路を考えさせる。</li> <li>・進路適性検査等により、自己の能力・適性を考える機会とし、適切な進路選択を行うよう指導する。</li> <li>・進学就職後の自己実現を見据えた生徒の進路実現に向け、丁寧な進路指導に取り組む。</li> <li>・生徒の進路志望状況をできるだけ具体的に把握するとともに、家庭との連携を図るため、進路選択に必要な適切な情報を提供できるよう資料の充実を図る。</li> <li>・進路実現を目指す生徒に対して、全教員による面接指導や個別学力補充の場を提供する。</li> <li>・3年時に大きな進路希望変更がある場合、十分な話し合いと保護者との緊密な連絡を行う。</li> </ul>																																																			
達成度	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="2">2学年平均点</th> </tr> <tr> <th>1年次</th> <th>2年次</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題の理解</td> <td>6.4</td> <td>→ 6.9</td> </tr> <tr> <td>主題の明示</td> <td>4.2</td> <td>→ 4.0</td> </tr> <tr> <td>考察の深め方</td> <td>7.6</td> <td>→ 8.9</td> </tr> <tr> <td>適切な具体例</td> <td>3.7</td> <td>→ 3.5</td> </tr> <tr> <td>根拠の説明</td> <td>7.4</td> <td>→ 8.4</td> </tr> <tr> <td>適切な段落数</td> <td>4.8</td> <td>→ 4.6</td> </tr> <tr> <td>論の展開</td> <td>8.3</td> <td>→ 8.7</td> </tr> <tr> <td>原稿用紙</td> <td>4.6</td> <td>→ 4.4</td> </tr> <tr> <td>表現・表記</td> <td>11.4</td> <td>→ 10.2</td> </tr> <tr> <td>読み手を意識</td> <td>9.2</td> <td>→ 8.7</td> </tr> <tr> <td>本校平均合計</td> <td>67.5</td> <td>→ 68.2 (+0.7)</td> </tr> <tr> <td>【全国平均合計】</td> <td>66.0</td> <td>→ 65.6 (-0.4)</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	2学年平均点		1年次	2年次	課題の理解	6.4	→ 6.9	主題の明示	4.2	→ 4.0	考察の深め方	7.6	→ 8.9	適切な具体例	3.7	→ 3.5	根拠の説明	7.4	→ 8.4	適切な段落数	4.8	→ 4.6	論の展開	8.3	→ 8.7	原稿用紙	4.6	→ 4.4	表現・表記	11.4	→ 10.2	読み手を意識	9.2	→ 8.7	本校平均合計	67.5	→ 68.2 (+0.7)	【全国平均合計】	66.0	→ 65.6 (-0.4)	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>平成3年度</td> <td>98.1%</td> </tr> <tr> <td>平成4年度</td> <td>97.2%</td> </tr> <tr> <td>平成5年度</td> <td>98.3%</td> </tr> <tr> <td>平成6年度</td> <td>99.1%</td> </tr> <tr> <td>平成7年度</td> <td>99.1%</td> </tr> </tbody> </table>	平成3年度	98.1%	平成4年度	97.2%	平成5年度	98.3%	平成6年度	99.1%	平成7年度	99.1%
評価項目	2学年平均点																																																				
	1年次	2年次																																																			
課題の理解	6.4	→ 6.9																																																			
主題の明示	4.2	→ 4.0																																																			
考察の深め方	7.6	→ 8.9																																																			
適切な具体例	3.7	→ 3.5																																																			
根拠の説明	7.4	→ 8.4																																																			
適切な段落数	4.8	→ 4.6																																																			
論の展開	8.3	→ 8.7																																																			
原稿用紙	4.6	→ 4.4																																																			
表現・表記	11.4	→ 10.2																																																			
読み手を意識	9.2	→ 8.7																																																			
本校平均合計	67.5	→ 68.2 (+0.7)																																																			
【全国平均合計】	66.0	→ 65.6 (-0.4)																																																			
平成3年度	98.1%																																																				
平成4年度	97.2%																																																				
平成5年度	98.3%																																																				
平成6年度	99.1%																																																				
平成7年度	99.1%																																																				
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文指導では、教職員の指導のみならず外部との連携を行い、プロの講師を招いてガイダンスを実施した。</li> <li>・ガイダンスの実施にあたっては、事前に講師と綿密な打ち合わせを行い、本校生徒にあった指導ができるように準備を万全に行った。</li> <li>・小論文ガイダンスの内容は大変分かりやすく充実したものとなり、生徒が関心をもって取り組んでいた。また小論文の指導方法など、教員にとっても参考となる内容となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学先、就職先の維持と新規拡大。</li> <li>・進路ガイダンスにおける外部との連携。</li> <li>・進路指導模試の事前事後指導強化。</li> <li>・生徒や保護者への資料提供方法の更なる改善。</li> <li>・大学進学後の円滑な学習を目指し、国公立大学や本校難関指定校の進学者における大学入学共通テストの受験の推進と手厚い指導の実施。</li> </ul>																																																			
評価	B	・本年度も全教職員の更なる協力のもと、面接や小論文など生徒進路実現への手厚い指導ができた。近年、進路満足度は上昇しており、昨年度初めて99%を超えた。この高い評価を本年度も継続することができた。																																																			
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実績には、全教職員による面接・小論文等の手厚い個別指導が定着した成果が反映されている。</li> <li>・進路満足度の高評価は、生徒の向上心が高まりを証明している。</li> </ul>																																																				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路意識における、より早期の確立</li> <li>・適切・効果的な進路指導による、より良い進路実現</li> <li>・卒業後の進路先における自己実現をも見据えた指導</li> <li>・学校全体による指導体制の更なる構築</li> </ul>																																																				

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

重点項目	学習指導		
重点課題	1 授業の充実 2 検定・資格取得の向上		
現 状	全商検定 1級3種目以上合格者 (第3学年) 令和4年度 80名 (29%) (3学年7クラス) 令和5年度 86名 (37%) (3学年6クラス) 令和6年度 90名 (38%) (3学年6クラス) 全商検定 簿記2級合格者 令和4年度 146名 (60%) (1学年6クラス) 令和5年度 182名 (80%) (1学年6クラス) 令和6年度 154名 (71%) (1学年6クラス)		
達成目標	1 授業の充実	2 検定・資格取得の向上	
	生徒の授業満足度 80%以上	全商検定1級3種目以上合格100名以上 (約40%) 全商簿記2級合格170名以上 (約70%)	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト学習による探究的な学びとデザイン思考を取り入れた学習指導の展開。</li> <li>学年統一実施の課題テストによる、生徒の学習進捗状況の確認と指導。</li> <li>2学期末考査後に検定対策の授業を毎日1時間設け、約2週間継続して実施。</li> <li>検定試験直前期に7限目を設け、約3週間検定合格に向けた指導を実施。</li> <li>熟練教師が若手の授業を参観し、週末に意見交換会にて指導力の向上に向けて取り組む。</li> <li>生徒の記憶定着システム (モノグサ) による、検定学習に向けた隙間時間の活用や自宅学習での活用を促進。(自宅学習における一人一台貸与のタブレットを活用)</li> <li>地域や企業、教育機関等、外部と連携した授業の拡大、充実を促進し、官学産連携による商品開発や金融教育を実施。</li> </ul>		
達成度	○令和5年度95.2% 1学年:94.7% 2学年:93.9% 3学年:96.9% ○令和6年度89.5% 1学年:88.6% 2学年:90.5% 3学年:89.9% ○令和7年度78.7% 1学年:75.6% 2学年:80.0% 3学年:80.6%	1 全商検定1級3種目以上合格 (第三学年) ○令和5年度 85名 (R6.2.6現在) 3種目(34名)・4種目(27名)・5種目(10名)・6種目(11名)・7種目(2名)・8種目(1名) ○令和6年度 90名 (R7.2.14現在) 3種目(39名)・4種目(18名)・5種目(22名)・6種目(9名)・7種目(1名)・8種目(1名) ○令和7年度 85名 (R8.2.17現在) 3種目(38名)・4種目(21名)・5種目(20名)・6種目(5名)・7種目(1名) 2 全商簿記2級合格 令和7年度 131名 (約59.0%)	
	具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト学習による探究的な学びとデザイン思考の手法を取り入れた学習指導の展開。</li> <li>学年統一実施の課題テストによる、生徒の学習進捗状況の確認と指導。</li> <li>2学期末考査後に検定対策の授業を毎日1時間設け、約2週間継続して実施。</li> <li>検定試験直前期に7限目を設け、約3週間検定合格に向けた指導を実施。</li> <li>検定試験直前期における放課後質問教室への協力を実施。</li> <li>基礎基本の徹底と、検定出題傾向の分析・対策の実施。</li> <li>地域や企業、教育機関等、外部と連携した授業の拡大、官学産連携による商品開発を実施。</li> <li>熟練教師が若手授業を参観し、意見交換会を実施し指導力向上を行う。</li> <li>生徒の記憶定着システム (モノグサ) による、検定学習に向けた隙間時間の活用や自宅学習での活用を促進。(自宅学習における一人一台貸与のタブレットを活用)</li> </ul>	
評 価	B	生徒授業満足度では、今年度より調査項目を変更したため、前年度までと比較して低い数字となったが、学年進行に応じて満足度が上がる結果となった。これは、生徒たちが商業科目の学び方に慣れていくことや、教師との人間関係が深くなっていくことが原因と考えられる。全商検定1級3種目以上合格について目標には及ばなかったが、生徒も頑張っており、目標に近い結果となった。全商簿記検定2級については、達成目標である70%に到達できなかったが、合格点(70点)にもう少しの生徒も多かった。	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年進行に伴い満足度が向上しており、指導の深化が伺える。</li> <li>目標達成まであと一歩だったが、生徒に粘り強く挑戦させることを意識させ、目標達成へとつなげたい。</li> </ul>		
次年度へ向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。</li> <li>「創造力を引き出す」デザイン思考を活用した探究的な学びの授業研究に取り組む。</li> <li>1学年ビジネス基礎・2学年マーケティング、3学年総合実践による3年間を通じた探究学習に取り組む、主体的に考え、学ぼうとする意欲を身に付けさせる授業に取り組む。</li> <li>TOMI SHOPの運営を授業「課題研究」・「マーケティング」・「ビジネス基礎」に落とし込み内容とTOMI SHOPにおける学習体系を整理し、再構築する。</li> <li>商業の科目を知識として学習するだけでなく、社会の中でどのように活かされているのかを意識させることで、キャリア教育としてのアントレプレナーシップの育成や探究的な学び繋げ、生徒が商業の可能性や面白さについて理解し、商業を学ぶことの楽しさを知るための取り組みを進める。</li> <li>商業を学び、その内容を活かせる力を育てるために、応用力の基盤となる基礎的学力の向上を目指す。</li> </ul>		

<評価基準> A: 達成した B: ほぼ達成した C: やや不十分だった D: 不十分だった

(様式5) 今年度の評価(学校アクションプラン)

令和7年度 富山商業高等学校アクションプラン - 6 -

重点項目	学習活動				
重点課題	生徒販売実習「模擬株式会社 TOMI SHOP」を通して社会人基礎力を育成する				
現 状	<p>社会人基礎力の3つの能力のなかで「考え抜く力」を苦手としている生徒が多く、第1回目(10月)の評価でレベル1(発揮できていない(どうしてもできない))を付けた割合が他の能力より多い。「TOMI SHOP」だけでなくあらゆる学校生活の中で「考え抜く力」は非常に大切な能力である。また、前年度最終評価でレベル3を付けていても、次年度になると評価を下げている生徒も多く、期間限定の能力となっていることから、成長した能力を維持できるような手だてが求められる。</p> <p>令和6年度 第1回目(10月) 各能力でレベル1を付けた生徒数の平均                  ○前に踏み出す力: 8%    ○考え抜く力 11.8%    ○チームで働く力 6.3%</p>				
達成目標	<p>「考え抜く力」の能力要素である「課題発見力」の最終自己評価のレベル3(通常の状態効果的に発揮できている(見事にできている))の割合</p> <p>A 40%以上    B 30%以上</p>				
方 策	<p>①商業科の授業の中でケーススタディを行い、個人またはグループで取り組むことで「考え抜く力」を養う。また、ケーススタディの題材に担当企業を取り入れることで、課題やその課題に対する解決策を具体的に考えられるようにする。</p> <p>②どのような店舗にしたいか目標を定め、共有する。                  目標を定めておくことで、現実との差を感じ、その差を課題と認識することができる。</p> <p>③各営業日の閉店後に、ミーティングを設定する。                  活動を振り返ることで課題が見える。また、解決策を考え実行する経験を積むことができる。</p> <p>④事後のTSHRで自分自身と他者を認めるワークを行う。                  「TOMI SHOP」の準備や運営で、頑張っていた他者や自分自身を認めることにより、自己評価を高めることができる。</p>				
達成度	<p>・社会人基礎力の自己評価を全3回(TOMI SHOP事前(10月)、事後(11月)、最終(12月))実施し、右表は能力要素「課題発見力」をレベル3と評価した生徒の割合の推移である。</p>		1年	2年	3年
		事前	23.4%	18.7%	29.9%
		事後	41.7%	33.9%	39.6%
		<b>最終</b>	<b>43.2%</b>	<b>34.9%</b>	<b>47.2%</b>
具体的な取組状況	<p>・社会人基礎力についての説明をHRで行い、「課題発見力」を身につけることでどのような成長が期待できるか、また仲間と協力することの大切さなどが伝わるようワークシートを作成した。また、2、3年生には、課題発見力だけでなく、目標とする自分にどのようなスキルが必要か考えさせ、意識づけさせた。</p> <p>・事後と最終評価の際、前回までの自己評価で自分が入力した内容を見直すことができるよう、振り返りシートを配付した。</p> <p>・事後評価では、同じ店舗で活動したクラスメイトとの他者評価を行った結果、生徒自身が気づけなかった成長を知ることができた。</p>				
評 価	B	<p>・どの学年も、回を追うごとにスキルを伸ばすことができた。しかしながら、2学年の伸びがほかの学年と比べ低く、目標の40%に届かなかった。</p>			
学校関係者の意見	<p>・TOMI SHOP等の行事を通じ、社会人基礎力が着実に向上した。</p> <p>・高い自己評価を年間通じて維持しており、成長の跡が見える。</p>				
次年度へ向けての課題	<p>・1年生には社会人基礎力についての説明と同時に、TOMI SHOP HRの際に「課題発見力」を意識した行動ができるよう教員側の働きかけが求められる。</p> <p>・2、3年生には、前年度までの経験をもとに、引き続き「課題発見力」を意識させ、目指す1年後の自分像に近づけられるようTOMI SHOPが自己研鑽の場の一つとして活用できるよう、係活動や運営の工夫が求められる。</p>				

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

(様式5) 今年度の評価(学校アクションプラン)

令和7年度 富山商業高等学校アクションプラン ー7ー

重点項目	特別活動	
重点課題	図書館の利用促進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年図書館オリエンテーションで選書、貸し出し体験を行っており、読書へのきっかけ作りにはなるが、2、3年の図書館利用が伸びない。</li> <li>・タブレットを活用した授業へのシフトにより、図書館利用が減少している。探究的な学習活動に関連する蔵書を増やし、資料センターとして、授業その他で活用しやすい図書館を目指していきたい。</li> <li>・デジタル媒体の浸透や生徒の多忙化の現状はあるが、読書を通して自らの生き方や社会のあり方を考える良書と出会える場が必要である。</li> </ul>	
達成目標	① 図書館行事と企画展示の充実	② 図書館の利用促進
	教養講座やビブリオバトルと連動した企画展示を行い、参加者を増やす	年間1冊以上図書館の本を借りる生徒の割合70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教養講座やビブリオバトルの参加者を増やすため、行事と連動した企画展示や事前の広報活動などを図書委員を中心に活発化する。</li> <li>・1学年での図書館オリエンテーション後も継続して図書館を利用する生徒を増やすために学年に応じた書籍・資料を充実させる。</li> <li>・担任、教科、進路と連携してLHでの進路学習や教科の探究活動、小論文指導等で図書館利用を促進する。</li> <li>・「新刊図書案内」(図書部発行)をGoogleクラスルームで配信するなど、ICTを活用した広報活動を展開する。</li> <li>・図書館だより(生徒図書委員会発行)や各企画展示を充実させ、図書館に足を運びたいくなる環境を整える。</li> <li>・進学や就職実現のための小論文関連本など、進路実現に有効な本を整える。</li> <li>・図書や雑誌の購入にあたり、生徒や教員の希望を多く取り入れ、利用を促進する。</li> <li>・図書館の検索システムを活用し、生徒自身が必要としている本を自力で探す力を身につける。</li> </ul>	
達成度	① 教養講座やビブリオバトルは事前の広報活動(ポスター掲示等)によって、参加者が増加した。図書館行事や季節や話題に合わせた展示(計40回)で来館者増につながった。	② 年間1冊以上の本を借りる生徒の割合 61%(1年100%、2年13%、3年70%) 昨年 54%(1年100%、2年38%、3年20%) 生徒1人あたりの貸出し冊数 2.9冊(1年3.3冊、2年0.6冊、3年2.9冊) 昨年1.9冊(1年3.5冊、2年1.2冊、3年1.1冊)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の防災についての教養講座に関連して、地震、水害における自助・共助・公助についての資料やパネル、避難所における簡易トイレ、段ボールベッドの展示なども合わせて行い、防災意識の向上に繋がった。</li> <li>・11月のTOMISHOPにおいて図書部コーナーを設け、図書委員のおすすめ本のポップや防災の展示を行い図書館利用の促進につながった。</li> <li>・12月のビブリオバトルでは学年を超えた活動を行い、未知の読書ジャンルに興味を持つきっかけとなった。事前の広報活動で図書委員以外に3名の参加者があった</li> <li>・時節に応じた企画展示(朝ドラ、熊、おみくじ、etc)など計40回実施し、来館者が増加した。</li> <li>・3年生に対し、小論文・面接対策や職業に関わる書籍をより多く揃え、生徒へ個別の進路相談などを通じて貸出冊数増加に繋がった。</li> <li>・各教科担当には授業での探究活動の場として図書室利用を提案し、特別授業期間中などでの利用増に繋がった。</li> <li>・探究学習用のさまざまなジャンル(芸術、地歴公民、商業…)の新刊を揃え、紹介した。</li> <li>・クイズラリーの企画や映像化された作品、芥川賞、直木賞を始め、最新の受賞作品等を紹介し、配架した。</li> <li>・Googleクラスルームを活用した新刊本紹介は画像が拡大できるなど生徒からたいへん好評であった。</li> <li>・各学年に読ませたい良書を選定し、Googleクラスルームで発信した。</li> <li>・統一HR読書会で各学年同じ本を50分間集中して読み、感想を書くことで読書活動のきっかけ作りになった。</li> <li>・在校生や卒業生の活躍の記事を図書室前掲示板、図書室内に掲示し、生徒には人気のコーナーであった。</li> </ul>	
評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年よりも1冊以上借りる生徒の割合、生徒一人当たり貸出数ともに増えたが、2年生の利用が極端に少なかったため、目標の70%以上には達しなかった。</li> <li>・一定の熱心な図書室利用者は存在し、知識・教養・思索を深める場となっている。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出数等は増加傾向にあり、読書意欲の向上が着実に見られる。</li> <li>・知を深める場として定着しており、低学年層への波及を期待する。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科での探究活動の場として、またLHの映像鑑賞などで図書室利用を促進したい。(図書室専用プロジェクター、大型スクリーンあり)</li> <li>・生徒が手に取りやすい本(漫画、映像作品原作等)を充実させ、生徒にとって、図書館が気軽に立ち寄れ、憩いを感じられる魅力的な場所になるよう、企画展示などをより充実させていきたい。</li> <li>・生徒は1人1台タブレットを持っている中、図書室の果たす役割を考えながら、良書の選定、蔵書の整備など環境整備を引き続き行っていく必要がある。</li> <li>・全学年を通じて、進路に関わる本を充実させ、生徒の個別具体的な進路相談などに答えられる体制を整えていきたい。</li> </ul>	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

(様式5) 今年度の評価(学校アクションプラン)

令和7年度 富山商業高等学校アクションプラン - 8 -

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が日常生活において災害を未然に防止し、自分と他人の生命を守り障害を防止し、安全な生活をおくるとともに、正しい理解と態度を養う。</li> <li>・教職員間で生徒理解を十分に図り、心理的な原因による体調不良等への対応や、相談、カウンセリング、専門医への繋ぎなど充実を図る。</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入は、任意であり掛け金や保護者の同意書も必要であるが加入率は100%を維持している。生徒や顧問、授業担当者への注意喚起をしているが、事故発生件数自体は減少が見られない。</li> <li>・様々な心理的な問題を抱え、不登校や保健室登校となる生徒がおり、教職員は生徒理解のためと教育相談スキルの向上が欠かせない現状である。</li> </ul>	
達成目標	応急手当講習会の実施	研修会の実施
	年2回	年3回(生徒1回、教職員2回)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や顧問、担任、授業担当者へ、AED校内設置場所の認識を図るとともに、危険箇所や事故の起こりやすい状況等について注意喚起する。また、生徒自身が危険を予知したり回避したりできるように、応急手当講習会を実施する。</li> <li>・研修会を通じて、生徒理解のスキルアップをめざす。また、心理的な原因による体調不良等の生徒対応を円滑に行うため、担任や顧問、学年主任、保健厚生部、保護者が連携して問題解決に取り組み、スクールカウンセラーや医師などの専門家の効果的な活用を図りながら、確実な問題の解決にあたる。</li> </ul>	
達成度	①応急措置救急講習会(7月) ・年1回実施できた。	②生徒研修会(11月) 教員研修会(6月、11月) ・年3回実施できた。
具体的な取組状況	<p>応急手当</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応急措置救急講習会を7月に実施した。変更点として、全ての生徒に危険性があると思い、運動部のみ対象にしていたものを、文化部を含む全ての部活動を対象にした。新しい取り組みとしては、昨年度はAED講習のみであったが、熱中症の応急措置も入れて実施した。初めて参加した文化部にも好評で、積極的に参加している様子が見られた。また、熱中症による大きな事故は起きていない。</li> </ul> <p>研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「集団の力を生かすコミュニケーションとは」を題材に、富山福祉短期大学幼児教育学科の学科長・教授小川耕平先生を講師として実施した。変更点として、昨年度の生徒研修は運動部のみを対象にしていたが、集団で活動する悩みは文化部にも抱えていると思い、今年度から全部活動を対象に実施した。体を動かす場面では、運動部にのみ任せようになりながらも文化部の生徒も楽しんで参加し、事後アンケートでは、集団で生かすコミュニケーションを意識していきたいという意見があった。新しい取り組みとしては、6月の教員研修も11月の生徒研修も同じ内容で実施した。生徒と教員が同じテーマで知識理解を深めることによって、各部活動の集団におけるコミュニケーションの活性化が期待できると思われる。</li> <li>・初任者を対象に、支援コーディネーターと教育相談について、養護教諭と保健業務について理解を深めた。</li> <li>・事後の生徒、教職員アンケートでは、継続して研修会を開いてほしいという意見が多くあった。</li> </ul>	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急法の分野における常に新しい知識と技術の進化や応急方法の多様化に対応するため、講習会を通して体得することができ非常に良かった。また、対象を広げることによって守られる命があると感じている。</li> <li>・集団の中で悩む生徒がいるので、コミュニケーションの大切さを学ぶことができ、生徒にとっても教員にとっても良い機会となった。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急法講習では、最新技術の習得は命を守る意識を高め、教職員の資質向上に繋がった。</li> <li>・講習会での交流を通じ対話の大切さを再認識し、良好な関係構築の契機となった</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人に危険がある時に対応できる態度を育成するため、応急処置については継続して講習会を実施する。あわせて健康管理を意識させるよう指導啓発を工夫していく必要がある。</li> <li>・教職員自身の学びを高めるために研修会を継続していきたい。また、多様な生徒に対してきめ細やかな対応ができるように、様々な専門家の招聘やスクールカウンセラー配置事業の活用を検討する。</li> </ul>	

(様式5) 今年度の評価(学校アクションプラン)

令和7年度 富山商業高等学校アクションプラン -9-

重点項目	その他	
重点課題	P T A活動への関心を高め、自主的・積極的な参加を推進する	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A総会への出席率は、3学年の進路説明会を同時開催することで50%を超える水準となっている。</li> <li>・ 本校独自のP T A事業として行っているP T A視察研修の満足度は90%を超える水準で、参加者も増加している。</li> <li>・ 生徒販売実習「TOMI SHOP」駐車場係への協力呼びかけも盛んに行っている。</li> </ul>	
達成目標	①P T A定期総会時の説明による学校の教育方針に対する理解度	P T A視察研修事業満足度
	90%以上	90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A定期総会の土曜日実施と1・2年生の授業参観・3年生の進路説明会・学年別懇談会の同日実施を継続し、保護者の日程的な負担を軽減することで、保護者が参加しやすくなる環境を整える。</li> <li>・ P T A定期総会時の学校長・進路指導部長・生徒指導部長による学校全体の概況説明、学年別懇談会での指導方針を説明してもらうことで、本校の教育方針に対する理解度をより深める機会とする。</li> <li>・ P T A視察研修先の事前アンケートと実施後の事後アンケートを継続実施し、その内容を踏まえて、より魅力ある研修会となるよう計画を立案する。</li> <li>・ P T A事業について多くの会員の参加を得られるように、行事内容を配布物と学校HPでの配信と両方で行う。</li> <li>・ 機会ある毎に情報メール受信の登録を促し、多くの保護者に情報配信できる体制を整える。</li> <li>・ 個人情報の扱いに留意しながら、QRコードによる出欠確認・意見集約を行い、保護者と教員の連携にスピード感を出す。</li> </ul>	
達成度	総会の出席率は50%程度であったが、委任状を含め95%以上の承認である。	視察研修は満足度ほぼ100%であった。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の連絡や情報配信については、メールやQRコード、グループラインなどを用いて迅速かつ丁寧を心掛けて実施した。</li> <li>・ P T A視察研修は12名と少人数の参加であったが、大原簿記公務員医療専門学校、株式会社コーセル、株式会社タイトを見学した。大変有意義な研修であるため、次年度はさらに多数の参加を促したい。見学の行き先などの候補について、保護者の方々からも建設的なご意見をいただいている。</li> <li>・ 生徒販売実習「TOMI SHOP」駐車場係に多くの保護者の方々からの助力をいただいた。来年度はさらに多くの協力者を得て、生徒の活動を支えたい。</li> </ul>	
評 価	B	今後、P T A行事について、多くの方の積極的な参加を促し学校活性化に貢献したい。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者の積極的な参画でP T A活動が活性化し、学校運営が活気づく働きかけを推進する。</li> <li>・ 学校と保護者が行事を通じて協力体制を深め、地域と学校を盛り上げる雰囲気を維持する。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A主催行事には、教育活動の理解や進路意識への関心に関わる部分が多いため、継続して要望を取り入れ、理解度・満足度を意識した行事の実施に努めたい。</li> <li>・ 役員だけでなく、全P T A会員の皆様の行事参加を促したい。</li> </ul>	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった